科目名	国際教養学博士特別研究 Ⅰ	授業形態	演習
英語科目名	Doctoral Directed Research in International Liberal Studies Ⅰ	開講学期	前期
対象学年	1 年次	単位数	2 単位
代表教員	各研究指導教員	ナンバリング	DIR701
担当教員	各研究指導教員		

授業概要	
全体内容	この授業科目では，博士論文を作成するための専門知識や研究手法を，研究指導教員の指導のもとで段階的に修得する。博士論文は，学生が設定したテーマに基づき，適切な研究方法を選択し，問いに対する解答を論理的に構築するものである。入学試験時の口頭試問において，希望する研究テーマと研究指導教員の専門領域の一致を確認した上で研究指導教員を決定し，在学期間中は継続的な研究指導を受ける。 なお、本課程では、異なる研究領域に属する複数の教員が主指導教員及び副指導教員として連携し、共同で博士論文の指導にあたる体制を構築している。学生は、主指導教員の専門分野に基づく研究テーマを中心に据えつつ、副指導教員の専門的視点や方法論を取り入れることで、異なる分野の知見を横断的に活用しながら研究を深化させていく。たとえば、グローバルコミュニケーション研究領域の教員が主指導教員となる場合には、グローバルヘルスサービス研究領域の教員が副指導教員を務めるなど、異分野間の協働による学際的な研究指導が展開される。このような体制により、学生は研究計画の段階から多様な学問的視座を統合する力を養い、単一分野にとどまらない高度な研究の遂行に向けた基盤を築くことが期待される。 国際教養学博士特別研究 I では，先行研究の検討を通じて研究テーマを確定し，研究計画書を作成することを主な目的とする。研究の方向性を明確にし，理論的枠組みや研究手法を具体化することで，今後の研究の基盤を築く。また，副指導教員の決定，研究計画書の作成と提出を通じて，博士論文執筆に必要な準備を整える。 ［研究指導教員および研究テーマの概要］ （1　加藤　洋一） 世界の上位死亡原因の一位を 30 年以上虚血性心疾患が占める等，非感染性疾患(NCD)死亡の世界的な増加や，COVID-19 パンデミックという地球規模の危機等を経て，医療専門職以外にも健康課題の解決

を担うグローバルヘルス人材の幅広い育成が求められている。非感染性疾患，特に動脈硬化のメカニズムに焦点を当てた独創的なテーマを絞り込み，国際的な先行研究も視野に入れた上で，実行可能なリサーチクエスチョンとして具体的な研究計画に落とし込む。「市民のヘルスリテラシー」向上に貢献できる研究者育成と広く社会的にも波及効果のある研究を目指しつつ，「根拠に基づく健康教育」のための実証的な研究の指導をしていく。

（2　伊東　辰彦）

社会の変化と芸術との関係性を意識しつつ，広く芸術一般について論じ，芸術作品の分析や歴史的考察，芸術・文化と社会・経済の関係などを，総合的な視点を踏まえて共に考えたい。学生には，人間の芸術活動について学ぶことによって，人間の社会や歴史において芸術が生み出す「美」がもっている意味についての理解を深めながら，自分という個人にとっても「芸術」が持っている意味を意識することを心がけて欲しい。こうした見識を踏まえた上で，後期課程においては，人類にとっての「美」に対する意識を幅広く探求し，国際的，地球的視野に立って，人類の将来にとって「美」に関する意識が不可欠であり，世界の平和，人類の存亡において芸術が果たす役割を積極的に発言できる人材を養成することを目指す。

（3　藤原　帰一）

パンデミック，気象変動，地域紛争，経済危機というグローバルリスクのなかでも主要な四つのテーマについて講義と討論を行う。この 4 テーマに関連した問いを参加学生が立てることを出発点とし，その次に，各自の問いを，概念定義が明確であり，学術研究を行うことが可能なリサーチクエスチョンへと具体化し，そのリサーチクエスチョンに対する回答として意味を持つ作業仮説を立てる。関連する論文・資料の入手方法について個別指導を行うとともに，リサーチクエスチョンと作業仮説について，先行研究のサーベイを伴う研究計画書を提出し，中間報告と討論を行う。

（4　湯浅　資之）

本演習は，グローバルヘルス領域における地球規模の健康課題のテーマの中から，学生が興味関心のある研究課題・リサーチクエスチョンを抽出し，その問題仮説を検証することを目指す。具体的には，リサーチクエスチョンを検討するための疫学理論とその数理処理のための生物統計の手法を修得する。リサーチクエスチョンを「アウトカム」と「関連する曝露要因」の関連性に読み替え，各々をどの変数で計測するのか検討する。またその関連性に影響を与える交絡

要因の存在と，交絡要因を制御する方法を学ぶ。サンプリングや計測に伴うバイアスの制御方法も併せて学修する。その上で生物統計をもとに関連性の妥当性と信頼性を検証し，結果を博士論文としてまとめられるようになることを目指す。

（5　ニヨンサバ　フランソワ）

分子細胞生物学研究法の基本を修得しその原理を理解しておくことは生命科学のいかなる分野に進むにあたっても必須である。分子細胞生物学的研究手法は，現実には非常に多様であるが，その中でもっとも基本的な実習として，細胞と遺伝子の階層的な関連について学習する。特に原核生物および真核生物のモデル細胞に対し，遺伝子組換え技術を用い，遺伝子が細胞の形質を決定する仕組みを理解すると共に，そのための手法を取得する。さらに，細胞の成り立ちを分子レベルで理解するために,その構成分子である核酸(DNA,RNA)やタンパク質を取り扱うための基本的な技能（PCR 法，ウェスタンブロッティング法など）を修得する。

（6　田村　好史）

全世界に共通する健康問題として，肥満や高齢化がある。その一方で日本では女性の痩せの問題が近年クローズアップされてきている。本授業科目では，このような健康課題に対するアプローチ法を検討するために，その根拠となる研究を行う。具体的には，過去に行われた研究のレビューを行うとともに，本研究室で進めている疫学のデータ解析を行うことにより，健康長寿を達成するためのエビデンスを構築する。このような研究を遂行することにより，クエスチョンや仮説の立て方，それを検証するための方法の立て方，得られたデータの正しい解析法，結果に対する客観的な解釈が身に着くことが期待される。

（7　池田（野田）　愛）

貧困や差別，社会構造や雇用などを含む社会・経済・文化が人の行動や心身の健康状態にどのように影響するのかについて，疫学研究手法を用いて調査を実施し，心理学，行動学，社会学，経済学等の理論を用いて解明する実証的な研究を行う。学位論文としてまとめる上で必要である，社会の構造が集団あるいは個人の行動，生活習慣，健康状態に影響を与えるという社会疫学の概念やその主要な方法論である疫学に関する知識，基本的な統計学や統計ソフトを用いた統計解析方法を指導する。

（8　岡本（安田）　美代子）

	本演習は，グローバルヘルス領域での国内外に生じている分野横断的な課題を含むテーマの中から，学生が関心のある研究課題を選択し，学術論文作成に向けた一連のプロセスを通して研究を実施する。具体的には，システマティックな文献レビューの実施，研究課題に適した研究デザインの構築および計画書の作成，倫理審査を経て，調査を実施する。結果の分析をまとめ，先行文献を基にした考察や研究の限界をもって，結論を導きだすことを目指す。加えて学術集会や海外研修への参加，発表，学術論文の投稿を行うことを目指す。 （9　大野 直子） ヘルスコミュニケーション学とは，医療分野におけるコミュニケーションを対象とした学問分野であるが，本演習では特に医療通訳を中心とした外国人患者と医療従事者の間でのコミュニケーションを学ぶ。外国人患者の問題は，異文化コミュニケーション，社会学，移民政策等多角的に研究が必要な学際的課題である。当該分野の先行研究のレビューを行い，研究手法を学ぶとともに，外国人医療に関する実践的知識を習得する。学んだ中から学生が興味関心のある研究課題・リサーチクエスチョンを抽出し，習得した知識に基づき，適切な理論と研究方法を用いて独力で研究の PDCA サイクルを回すことが出来るようになることを目指す。 （10　原　和也） 本演習の目的は，異文化間のコミュニケーションに関する諸問題を多面的に認識し，その解決策を，社会科学的視点からの理論構築をもとに見出すことである。受講生が異文化コミュニケーション学の主要概念，理論について十分な知識を持っていることを前提とし，先行研究のレビュー，仮説モデルの構築，実証にあたっての適切な分析法について考察を深めていく。また，欧米のコミュニケーション理論を無批判に受け入れるのではなく，非西洋的視点・東アジア中心のコミュニケーション学研究の視点から，新たな示唆を提供することも目標とする。
到達目標	・先行研究の検討を通じて研究テーマを確定できる。 ・研究の理論的枠組みを明確にし，適切な研究方法を選択できる。 ・研究計画書を作成し，指導教員の助言をもとに修正・完成させることができる。
授業の位置づけ	研究指導科目，必修科目
ディプロマ・ポリシー，コンピテンシーとの関連	ディプロマ・ポリシーのうち，「知識と理解（DP1)」「知識と理解の実践（DP2)」「判断力（DP3)」「コミュニケーション力（DP4)」「自律的に学ぶ力（DP5)」に関連している。

履修上の注意，履修要件	自身が学びたい専門分野を専門とする研究指導教員が決まっていること。
成績評価の方法	
評価方法	研究計画書（100%）
評価基準	・研究の目的，研究の背景，研究の手法が明確に記載されているか ・参考文献（先行研究）・資料リストは十分であるか ・想定される研究の成果は妥当であるか
試験・課題等に対するフィールドバック方法	
課題に対する取り組みとその成果により評価する。	
テキスト	
研究テーマごとに別途指示する。	
参考文献	
研究テーマごとに別途指示する。	
その他	
連絡先・オフィスアワー	各研究指導教員がオフィスアワーを設定する。
担当教員の実務経験	N/A
備考	授業計画は予定です。詳細については，研究指導教員の指示に従ってください。

授業計画

授業回	担当者	授業内容	授業方法※	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	研究指導教員	履修説明会と博士論文執筆の基礎理解	演習	【予習】博士課程のカリキュラムを確認し，研究計画の全体像を整理する。（120 分） 【復習】研究の進め方を整理し，研究テーマの候補を考える。（120 分）
2	研究指導教員	研究テーマの選定と先行研究の調査方法	演習	【予習】希望する研究テーマに関する文献を調査し，研究の方向性を検討する。（120 分） 【復習】収集した文献を整理し，研究の独自性を明確にする。（120 分）
3	研究指導教員	先行研究の整理と研究課題の特定	演習	【予習】重要な先行研究を読み込み，研究課題を明確にする。（120 分） 【復習】研究課題を整理し，テーマの焦点を定める。（120 分）
4	研究指導教員	研究計画の策定と理論的枠組みの構築	演習	【予習】研究目的を明確にし，理論的枠組みの構築方法を検討する。（120 分） 【復習】指導教員の助言をもとに，理論的枠組みを整理する。（120 分）
5	研究指導教員	研究方法の選定と適	演習	【予習】研究手法に関する文献を調査

		用可能性の検討		し，適用可能性を検討する。(120 分) 【復習】研究手法の妥当性を評価し，必要な修正を加える。(120 分)
6	研究指導教員	研究計画書の作成(第1稿)	演習	【予習】研究目的，方法，スケジュールを記述し，計画書の草案を作成する。(120 分) 【復習】指導教員の助言をもとに，研究計画書を修正する。(120 分)
7	研究指導教員	副指導教員の決定と指導体制の確立	演習	【予習】副指導教員候補の専門分野を調査し，候補をリストアップする。(120 分) 【復習】副指導教員を決定し，指導体制を整理する。(120 分)
8	研究指導教員	研究計画書のブラッシュアップ	演習	【予習】研究計画書の内容を精査し，修正点を整理する。(120 分) 【復習】指導教員の助言をもとに，計画書を修正する。(120 分)
9	研究指導教員	研究計画書の最終調整と提出準備	演習	【予習】研究計画書を最終確認し，論理的整合性を確認する。(120 分) 【復習】計画書を完成させ，指導教員に提出する。(120 分)
10	研究指導教員	博士論文の執筆計画の策定	演習	【予習】博士論文の章立てや執筆スケジュールを検討する。(120 分) 【復習】執筆スケジュールを確定し，論文執筆の準備を進める。(120 分)
11	研究指導教員	研究倫理とアカデミックライティング	演習	【予習】研究倫理に関する資料を読み，倫理的配慮について考える。(120 分) 【復習】研究倫理を意識しながら，研究計画を見直す。(120 分)
12	研究指導教員	博士論文の文献レビューの進め方	演習	【予習】文献レビューの方法を学び，自身の研究に適用する。(120 分) 【復習】研究に関連する文献を体系的に整理する。(120 分)
13	研究指導教員	研究進捗報告とフィードバック	演習	【予習】研究の進捗を整理し，指導教員と議論できるよう準備する。(120 分) 【復習】フィードバックをもとに，研究計画の修正を行う。(120 分)
14	研究指導教員	博士論文執筆に向けた課題整理	演習	【予習】これまでの研究内容を振り返り，今後の課題を整理する。(120 分) 【復習】研究の課題を明確にし，解決策

				を検討する。(120 分)
15	研究指導教員	総括：1 年次前期の振り返り	演習	【予習】研究の進捗を整理し，研究計画の達成度を評価する。(120 分) 【復習】研究計画書を再確認し，博士論文執筆に向けた準備を整える。(120 分)